

Social medical corporation hokuto

★広報誌★

# ほくと7

seven

105

VOL.

2022.5

<http://www.hokuto7.or.jp>

[特集]

## リハビリテーションの力

Tokachi Rehabilitation Center



# 院長就任のごあいさつ

十勝リハビリテーションセンター 院長 白坂 智英

皆さま、はじめまして。

2022年4月1日より社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンターの院長に就任いたしました白坂です。2000年より国が回復期リハビリテーション病棟を創設して以降、近年益々リハビリテーション医療の重要性が増している中で、鎌田理事長より院長という大役を拝命しその重責に身が引き締まる思いです。

2013年11月1日、十勝地方のリハビリテーションを担い急性期治療後の患者が本来の生活の場に戻るためのお手伝いをすべく社会医療法人北斗十勝リハビリテーションセンターが設立されました。以降、帯広市を中心に十勝全域の脳神経疾患、整形外科疾患、廃用症候群等の患者さんから回復期リハビリテーションから訪問など生活期リハビリ

テーションまでシームレスなリハビリテーションを提供してまいりました。当法人の理念は「革新に満ちた医療への挑戦と新たな組織価値の創造」です。当

院ではリハビリテーションスタッフのみならず看護師を始め全ての職員がチーム一丸で患者に寄り添うリハビリテーションを行い、更にロボットや電気刺激装置、磁気刺激装置を使用した最先端のリハビリテーションを実践することで患者さんが失った機能を最大限に回復することを今後目指していきたいと考えております。当院はリハビリテーション室のみならず病棟においてもロボットを使用しており、患者さんがいつでもどこでも最善のリハビリテーションが行える環境を整えており

ます。この十勝からリハビリテーションの更なる革新を発信すべく私もスタッフと一緒に日々研鑽してまいります。

**【I can't】**  
できないから  
**【I can】**  
できる、へ。

患者さんが住み慣れた地域で再び豊かな在宅生活を送るために、今後も尽力していきたいと思えます。引き続き皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

*Shirasaka Tomohide*

1993年旭川医科大学脳神経外科入局、同門会北大脳神経外科を経て、2022年十勝リハビリテーションセンター院長就任

# 十勝リハビリテーションセンター

## リハビリテーションの力

### 道東最大規模のリハビリテーションセンター

十勝リハビリテーションセンターは、道東で最大規模（※回復期リハビリテーション病棟協会調べ）の回復期リハビリテーション病床を有する病院として開院9年目を迎えました。現在、理学療法士67名、作業療法士46名、言語聴覚士13名、訪問リハビリテーションのセラピスト16名、そして十勝管内のリハビリテーション病院ではまだまだ配置の少ない公認心理師を4名配置し、質量共に差別化されたリハビリテーションを目指しています。この9年間でリハビリテーションを目的とし入院された患者さんの総数は約4300名となり、そのうち3400名はご自宅に退院されました。ご自宅に退

院された方の400名は訪問リハビリテーションを利用し、1000名（※各北斗調べ）は通所リハビリや通所介護を利用しています。退院後の患者さんが住み慣れた

### 高機能リハビリ機器によるリハビリの見える化・標準化とロボティクス・リハビリテーション

2019年11月より、高機能リハビリテーション機器によるリハビリを積極的に展開しています。先端リハビリテーション機器を数多く導入し、評価・治療の数値化・標準化を行いより効果的なリハビリを提供しています。従来からのセラピストによるリハビリテーションと併用することでリハビリテーション効果の最大化を目指しています。また近年では、技術革新により上肢や下肢の機能訓練ロボットやニューロリハビリ

地域で生き生きと生活するお手伝いを継続して行っています。

リハビリテーションの概念によるリハビリテーション機器が数多く開発されています。当院では、この様な最新機器をしっかりと使いこなせるセラピストを育成し、患者さんのリハビリテーションに寄与できるよう努力しています。



高機能リハビリ機器 / シーミル



広い入室



十勝リハビリテーションセンター  
リハビリテーション部

部長 阿部 正之  
Abe Masayuki



アートセラピーの様子

## コロナ禍と病棟での リハビリテーション

一昨年末からのCovid19の  
猛威はリハセンターにも重  
くのしかかりました。入院  
と外来の患者さんのゾーニ  
ングが徹底され、入院患者  
さんについては病棟でのリ  
ハビリのみとなり活動範囲  
が制限されています。ご家  
族の面会についても制限が  
かかり、平均在院日数が80  
日から90日の入院患者さん

にとつては大きなストレス  
となっています。ご高齢の  
患者さんにおいては、長期  
の活動制限がある入院生活  
で不穏になる方や、認知症  
が進行してしまう方も少な  
くありません。これらの患  
者さんに対して公認心理師  
が患者さんの状況を観察し  
積極的に関わることで心理  
面でのサポートをしつかり  
行っています。また公認心  
理師と作業療法士が中心と  
なったアートセラピーを行  
い、心のケアを行っている  
ことは他のリハビリテー  
ション病院とは差別化され  
ている点といえます。

## 安全な運転再開を見据えた ドライブレシミュレーター

厚生労働省の発表によると  
認知症予備軍とされている軽  
度認知症（MCI）の数は  
2012年で400万人と報  
告され、2025年には認知  
症の有病率は700万人を超  
えてくる様です。この数字か  
らMCIの数を推計すると  
470万人となります。十勝

においては交通インフラが脆  
弱であり、移動手段といえば  
自家用車であることは言うま  
でもありません。リハセン  
ターに入院される患者さん  
の多くは、退院後の自動車  
運転を希望される方も少な  
くありません。このような  
ニーズに応えるべく、より  
運転に特化した評価を行う  
為、一昨年にドライブレシ  
ミュレーターを導入してい  
ます。運転に必要な認知機  
能と運動機能の評価、その  
評価を元に適切なリハビリ  
テーションを提供していま

す。また、北斗病院でも  
「運転が必要な方のための  
脳ドック」にてドライブレシ  
ミュレーターを導入してお  
り、公認心理師が評価、ア  
ドバイスを行っています。

## 地域リハビリテーション

十勝リハビリテーション  
センター開院以来、リハビ  
リテーション部ではその  
ミッションとして、「回復  
期リハビリテーション病棟  
を基軸とした地域包括ケア  
体制の確立」を掲げ事業を  
進めてきました。

回復期リハビリ  
テーション病棟  
から住み慣れた  
ご自宅へ復帰し  
て生活して頂き、  
リハビリの継続  
が必要な方には、  
各事業所の訪問  
リハビリテー  
ションや通所リ  
ハビリテーショ  
ンへ橋渡しを行  
う支援体制を構  
築してきました。



ドライブレシミュレーター

# 十勝リハビリテーションセンター

近年では帯広市の地域リハビリテーション活動支援事業に積極的な関与を行っています。2016年から2021年度までの期間において、普及啓発活動（元気活動コース）170回、活動支援事業（リハビリ専門職派遣事業）として65回の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の派遣を行っています。特にコロナ禍においても高齢者の自宅への引きこもりや活動範囲の低下は、身体機能や認知機能の低下に結びつく危険があり、これらを解決していく手段として一定の効果を上げています。加えて、発達支援センターへの作業療法士の派遣によるお子さんへの支援や転倒予防教室への理学療法士の派遣、そして、小中高等学校への公認心理師の派遣による児童・生徒・ご家族・職員の心のケアなど、病院で提供できるリハビリテーションサービスの枠を

越え地域のニーズに応えた活動を行っています。

## 周辺校への協力 インターンシップ

文教地区にある十勝リハビリテーションセンターでは、周辺にある小中高校より見学やインターンシップの依頼が多くあります。次代を担う児童、生徒さんに当院の役割や専門職の仕事の紹介、実際の仕事の現場を見学して頂き、将来のキャリア形成のお手伝いを行っています。ここ2年程はコロナ禍により現場での見学は見送っておりますが、Zoomを利用した学校の授業への配信などでニーズへの対応も行っています。



2019年撮影

## これからの展望

脳血管疾患や運動器のリハビリテーションはもちろんです。疾病構造の変化、超高齢社会、治療技術の進歩によるリハビリテーション対象者の拡大にも対応していくことが必要となってきました。国立がん研究センターが昨年12月に発表したがん診断されてから5年後の生存率は、全体で67・5%となっており、がんサバイバーへの体力の改善や生活リハビリテーション



訪問リハ

ンなど多くの支援が必要と考えられています。また、高齢化が進み患者数が増加している病気にパーキンソン病があります。神経変性疾患の中でアルツハイマー病に次いで2番目に患者さんの多い疾患です。罹患の頻度は比較的高く、我が国の患者数は15〜20万人（65歳以上の100人に1人）といわれています（※難病情報センター）。これらのリハビリテーションについても力を入れて推進していくことが必要です。社会医療法人北斗が提供するリハビリテーションは、急性期・回復期・生活期・地域リハビリテーションがすべて有機的に機能することにより、社会資源として更に大きな力を発揮していくことが可能であると考えています。

## 発表論文が最も引用された論文に選出

病理遺伝子診断科 主任 山口 朋美

2020年にDiagnostic Cytopathologyという医学雑誌に投稿した論文が2020年〜2021年の最も引用された論文 (Top cited article) として出版元のWILEY社より表彰されました。『他の論文に引用される』ということは関連するテーマが世界中で研究されており、そのテーマの中でも先行した研究として手技や結果が参考にされているということです。腫瘍(できもの)から注射針で細胞を採ったり、おなかや胸

に溜まった水を抜いたりして集めた細胞を顕微鏡で観察してがどうか判定する細胞診という検査があります。これまで細胞診検査で残った検体は他の検査に活用されていませんでした。これを使って遺伝子検査ができないか検討した結果、がんに特徴的な遺伝子を検出することができたことを論文としてまとめました。この技術が発展すれば顕微鏡で細胞の見た目だけではがんか判断が難しい症例も、遺伝子検査でよりがんの疑いが強いかどうか調べることができるようになります。体調が悪い、病気が見つかるかもしれない、これから治療が始まるといった多くの不安の中、研究へのご理解とご同意をいただける患者の皆さまに感謝申し上げます。目の前の患者さまに最善の医療を尽くすと同時に、将来同じ病気に苦しむ方により進んだ医療を提供できるように研究業務にも励みたいと思います。



Tomomi Y., Toshiki A., Oti H., et al. Next-generation sequencing in residual liquid-based cytology specimens for cancer genome analysis. Diagn. Cytopathol. 2020 Nov;48(11):965-971.

## 「なんとなく変」それは認知症のサインかも?

精密医療センター 長 嶋原 良仁

「なんだか最近忘れっぽくて：認知症かしら?」そんな言葉をよく耳にします。認知症の症状といえば「ものわすれ」がその代名詞。一方で、現場で患者さんを診ていると「ものわすれ」が目立たない患者さんに、しばしば出会います。そういった患者さんは「なんだか最近変なんです。買い物とか、料理とか、なんとなく段取りが悪くなっちゃって」と訴えます。これは脳の「前頭葉」という部分の調子が悪いときに出る症状で、認知症の初期には、あまり見られないとされています。

でもそれは本当に正しいのでしょうか。

疑問に思った私たちは、北斗病院の関連施設である、熊谷総合病院の患者さん207人分のデータを、詳しく分析してみました。

すると軽度な認知機能の低下を示す人のうち、3人に1人は「ものわすれ」よりもむしろ「なんとなく変(前頭葉症



状)が目立つタイプであることが分かりました。この研究成果はその正当性が評価され、国際科学雑誌Scientific Reportsに掲載されました。

認知症は生活改善などの適切な治療で、結構よくなります。ものわすれが目立たなくても気になることがある方は、お近くの専門の先生に診てもらったことをお勧めします。

Hoshi, H., Hirata, Y., Kobayashi, M. et al. Distinctive effects of executive dysfunction and loss of learning/memory abilities on resting-state brain activity. Sci Rep 12, 3459 (2022).

# 園芸療法

草花や野菜などの身の回り  
にある自然とのかかわりを通  
して、心の健康、体の健康、  
社会生活における健康の回  
復を図る園芸療法に老健か  
けはしは取り組んでいます。

新しくガーデナーが入職しました!

かきこぼし

菊池加津人  
Kikuchi Kazuto

庄田 香澄  
Shouda Kasumi

社会医療法人 北斗  
介護老人保健施設

## かけはし

# New Face

## 難聴・耳手術センター

センター長/特別顧問  
旭川医科大学名誉教授

# 原 洸 保 明

Harabuchi Yasuaki



十勝・釧路地方では唯一の耳手術指導医として難聴や耳疾患の患者に対して手術を中心とした治療を行います。また、旭川医大教授として23年間で培った経験と人脈を生かして十勝地方における先進医療や包括医療の推進に尽力いたします。

<b>略歴</b>	1982年旭川医科大学卒 1987年札幌医科大学大学院卒 1998年旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 2017年旭川医科大学医学科同窓会会長 2021年日本耳鼻科免疫アレルギー感染症学会理事 2022年より現職
<b>取得認定医・専門医</b>	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定専門医・指導医 日本耳科学会認定耳科手術指導医 日本アレルギー学会認定専門医・指導医

# 新規オープン!! めぐみ乳腺クリニック

めぐみ乳腺クリニックでは、乳がん検診、乳がん検診後の精密検査、乳房に症状がある方の検査、乳がん手術後のフォローアップをおこないます。医師、看護師、放射線技師はすべて女性で、安心して受診しやすいクリニックを目指しています。隔週水曜日は午後7時までの夜間診療(完全予約制)もおこなっておりますので、お仕事帰りにもご利用いただけます。初めての方や乳がん検診はネットでも予約を受け付けております。毎週火曜日の午後は、北斗病院で乳腺領域の手術をさせていただくことになりましたので、よろしくお願いいたします。



院長 鈴木 恵

## めぐみ乳腺クリニック

帯広市柏林台中町2丁目2番地32

☎0155-67-5027

■診療時間 / 9:00~12:30, 14:00~16:30

※水曜、土曜、休診についてはホームページ参照



●夜間救急センター



おおた内科循環器  
クリニックさま隣

柏林台公園

啓西小学校

西16条通





Dr.石田

変形性膝関節症に

# APS療法

自由診療

変形性膝関節症でお悩みはありませんか？

- もうしばらく手術をせずになんとかしたい
- 今は長期入院できない。外来治療であと2~3年なんとかならないか？
- 負担の大きい手術はムリ。でも少しでも痛みを和らげたい



まずはわたしたちにご相談ください！

## 北斗クリニック 整形外科

# 下肢静脈瘤

かじょうみやくりゅう

下肢静脈瘤は足の血管の病気です。静脈弁が壊れて血液が心臓にうまく戻らなくなった状態です。



- 足の血管がデコボコして目立つ
- 足がむくんでかゆい・痛い
- 夜間に足がよくつる

当院ではより侵襲性が低く、効果のあるレーザー治療を行っています。お気軽にご相談ください。

## 北斗クリニック 心臓血管外科

Dr.大友

お気軽にお問い合わせください

すべてのお問い合わせ ☎0155-48-8000〈北斗コールセンター〉



社会医療法人 北斗

# 北斗病院



■関連施設

- |                         |            |                          |               |
|-------------------------|------------|--------------------------|---------------|
| 北斗病院                    | .....(帯広市) | 認知症対応型共同生活介護グループホーム あおぞら | (帯広市)         |
| 北斗クリニック                 | .....(帯広市) | 上士幌クリニック/介護老人保健施設かみしほろ   | (上士幌町)        |
| 十勝リハビリテーションセンター         | .....(帯広市) | 新得クリニック                  | (新得町)         |
| サービス付き高齢者向け住宅 あやとり      | .....(帯広市) | 熊谷総合病院                   | (埼玉県熊谷市)      |
| 十勝自立支援センター介護老人保健施設 かけはし | (帯広市)      | HOKUTO画像診断センター           | (ロシア・ウラジオストク) |
| ほくと自立支援ホーム/カンタキあおぞら     | (帯広市)      | HOKUTOリハビリテーションセンター      | (ロシア・ウラジオストク) |